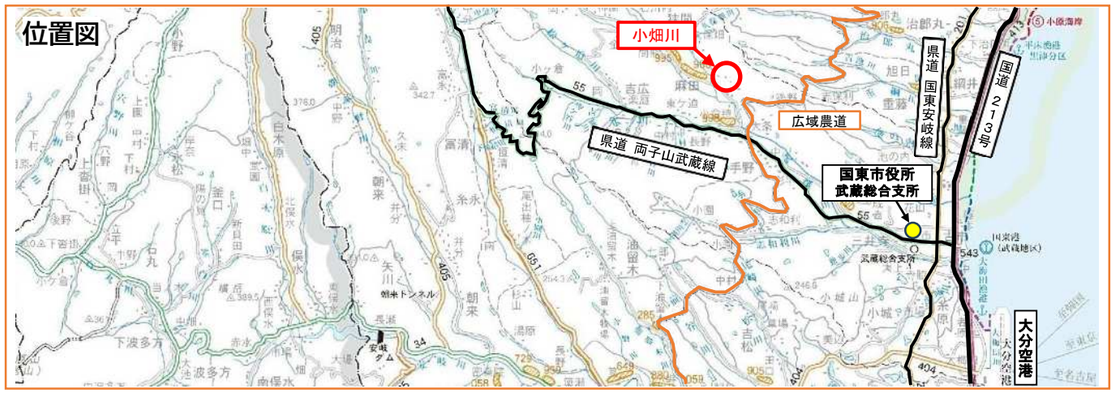
設計段階における三者協議結果資料　　小畑川　橋梁詳細設計（砂防河川）

位置図



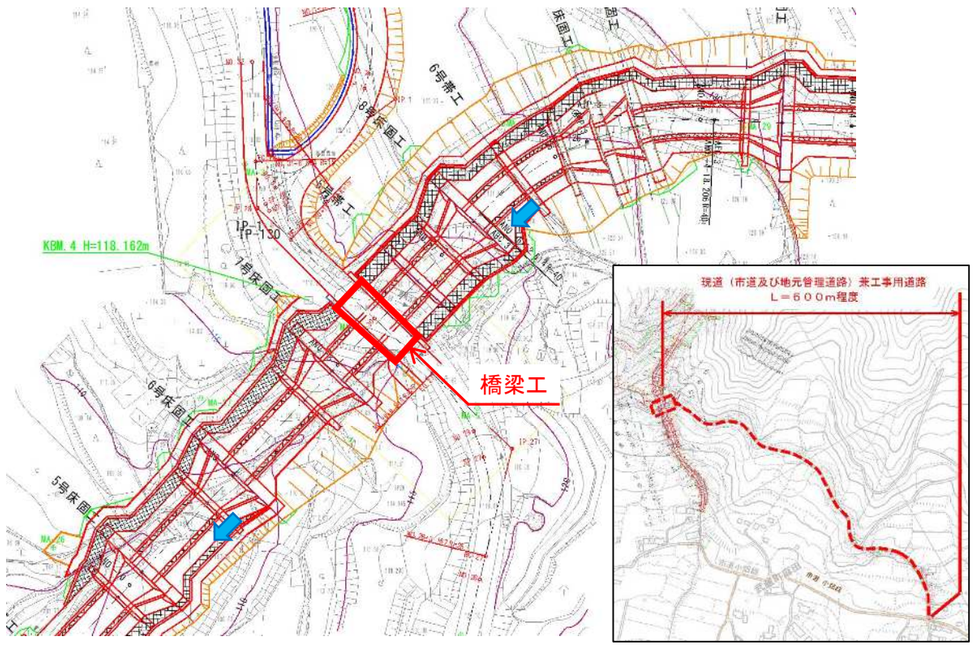
現地条件・課題（施工上の制約、設計のコントロールポイント等）

- □ 工事用道路として現道（地元所有）を利用する
- □ 市道から橋梁計画地点までの資材等の運搬延長が約 600mである
- □ 現道（地元所有）の幅員は、3m前後で、コンクリート舗装である
- □ 起点部の幅員減少（3m未満）の箇所は、一部拡幅と縦断勾配是正を行う

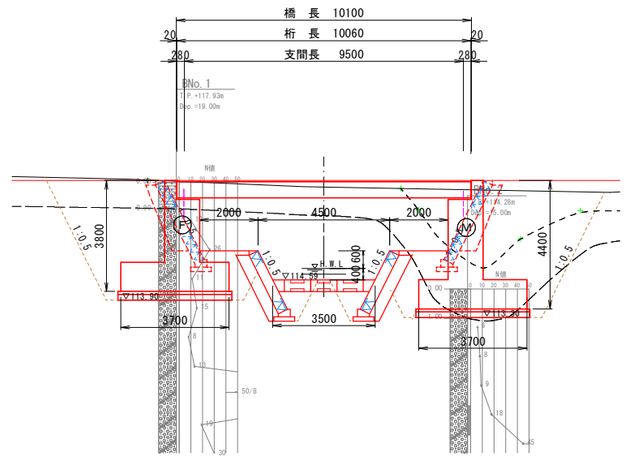
設計条件

- □ 道路区分：なし　□ 設計速度：V=－km/h　□ 河川名：小畑川（土石流危険渓流）
- □ 計画幅員：W=3.5m（車道 3.00m，路肩 0.25m）1 車線
- □ 河川水位：HWL=115.00m

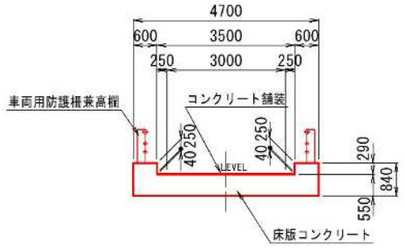
平面図



側 面 図



標準断面図



施工者からの意見及び対応方針

〇改善事項

■工事用道路の延長が 600mと長いことから待避所が必要である。

→ 待避所は、現地に１箇所あるが、延長が長いため、地形条件を踏まえ、必要に応じて計画位置を検討する。

■工事用道路兼現道の入口部の道路勾配では、工事用車両の出入り時に急変部で車両の前後が路面に当る可能性が高い。よって、計画勾配に修正が必要である。

→入口部の右側を掘削して、坂路形式に入口部の道路計画を見直し、距離を確保して勾配を緩くするなど改善する。

■工事用道路の上空は、路面から 4.0～5.0m程度の高さまで伐採が必要である。（参考値：10tダンプの車高 3.5m）。

→ 現地調査にて立竹木調査を行う。

〇確認事項

■工事用道路として現道利用を計画していますが工事車両の通行は可能でしょうか。

→ 工事用道路は、現況のコンクリート舗装 W=3.0mを 3.5m以上確保できるよう山側へ拡幅して、道路幅員を確保する必要がある（対象車両：10tダンプ，10t平ボディ）。

■橋梁施工に際して、本現場で配慮する条件があるでしょうか。

→ 橋台掘削背面には、工事用道路と別に材料設置ヤードの確保が必要である。

■橋梁を含む砂防事業全体施工の手順の御意見を頂きたい。

→ ダム本体工の砂防事業の施工手順を考えると、下記の手順が良いと考える。

①橋梁から上流側の流路工を施工する

②下流端から橋梁付近まで流路工を施工する。

③橋梁部付近の施工が最後となる。